

2011年2月9日

中期経営計画 “Grow Beyond-2012” の進捗について

AGC 旭硝子株式会社

AGC（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：石村和彦）は、AGCグループの長期的な成長イメージ「2020年のありたい姿」と、その実現に向けた中期経営計画 “Grow Beyond-2012” を2010年2月に策定し、経営方針 **Grow Beyond** に掲げた成長基盤の構築に向けた取り組みを進めています。“Grow Beyond-2012” の初年度にあたる2010年度に実施した施策と経営目標の達成状況、ならびに今後展開する事業戦略や経営課題について、以下のとおりお知らせします。

1. 中期経営計画初年度の達成状況

“Grow Beyond-2012” の初年度である2010年12月期は、キーワードを「活」と定め、その前年に蓄えた生産性・歩留向上等の力を活かすことに注力しました。その結果、ガラス、電子・ディスプレイ、化学の全ての事業が増収・増益となりました。具体的には、建築用ガラスの出荷増、自動車ガラスの出荷回復、フラットパネルディスプレイ（FPD）用ガラス基板の堅調な出荷、フッ素化学品の設備稼働率上昇等によって、売上高は前期を上回る1兆2,889億円となり、また営業利益は2,292億円、当期純利益は1,232億円と、利益はいずれも過去最高となりました。ROEは目標の12%を上回る15.8%となり、D/Eレシオについても0.6まで改善が進んでいます。

また、成長基盤の構築に向け、2010年12月期に実施した主な施策は次のとおりです。

- 新興市場関連：中国（昆山）にTFTガラス基板研磨工場を新設
：ロシアで世界最大級フロート窯を稼働
- 環境関連：窓事業についてトステムと業務提携
：高出力LED照明用ガラスセラミックス基板を上市
- 新製品関連：世界初^{※1}99%^{※2}紫外線をカットするフロントドア用強化ガラスを上市
：民生用世界最速プラスチック光ファイバ(FONTEX)を上市
※1 2010年12月現在、弊社調べ。 ※2 弊社測定値。ISO9050基準。

2. 今後の課題

(1) 既存事業の収益力強化

● ガラス

建築用ガラスについては、最先端のコーティング技術による地域最適の省エネガラスなど、各地域の需要に合わせた製品の開発・製造・販売を進めます。自動車ガラスについては、エコカーに求められる省エネ性能や、紫外線カットなどの快適性能を追求した製品開発を進め、お客様への積極的な提案を行っていきます。

ガラス事業全体では、各地域に配置した生産拠点を需要動向に合わせて効率良く稼働させるとともに、原材料から最終生産品までの総合生産性の向上により、一層のコストダウンを図ります。

● 電子・ディスプレイ

ディスプレイ事業については、生産性・歩留の継続的な改善と、日本・台湾・韓国の各拠点で需要に合わせたフレキシブルな稼働を進めていきます。さらに、TFT用ガラス基板の薄型化のニーズや、中国でのTFT液晶パネルの需要増にも積極的に対応し、市場の成長、発展に対応していきます。

- **化学**

フッ素化学事業については、航空機や自動車、ソーラー等への多用途展開を拡大するとともに、差別化戦略を強化していきます。また、クローラルカリ事業については、タイやインドネシアの旺盛な需要に応じて設備能力を増強し、事業を拡大していきます。さらに、医農薬中間体ビジネスの強化や、プロセス革新による生産性向上と継続的なコストダウンにも努めていきます。

(2) 成長基盤の構築

経営方針 **Grow Beyond** に掲げた成長基盤の構築に向け、「ガラス技術立社」および「地球温暖化問題に技術力貢献」への取り組みとして、当面、次の成長分野に注力し、事業開拓を加速していきます。

- **ディスプレイ用特殊ガラス分野**

スマートフォンやタブレットPC、3Dテレビなどの電子機器の発達に伴い、そこで用いられるガラスに求められる機能もより多様かつ高度なものになっています。

AGCグループは、この事業機会を確実にとらえ、これまでFPD用ガラス基板などの電子用特殊ガラス製造で培った、生産効率の高いフロート法により、高い機能を持つ特殊なガラスを大量、安定的に生産していきます。本年1月に本格販売を開始した化学強化用特殊ガラス「Dragontrail™」はその一つであり、市場が求める強く耐傷性に優れたカバーガラスを、電子用フロート窯によって効率的に大量安定供給していきます。また、多数保有する電子用フロート窯全体の稼働を一元的に管理し、最適化を図ります。

さらに、建築用・自動車用・ソーラー用ガラス市場での長年の経験から得たノウハウやネットワークを活かし、化学強化用ガラスの多用途への展開の可能性を追求していきます。

- **環境関連分野**

今後も成長が見込まれる太陽電池・太陽熱発電などのソーラー関連事業については、ガラス・化学・セラミックスのAGCグループの総力をあげて、部材の高性能化や拡販を進め、2015年には売上高1000億円を目指します。

建築用ガラスについては、コーティング設備をグローバルに保有する強みを活かし、各地域に適した最先端の省エネガラスを開発・製造・販売していきます。日本では、最新式のコーティング設備を導入し高機能製品の開発を進めるとともに、窓事業に関するトステム社との業務提携等により、省エネ窓の提供基盤の構築を進めます。

自動車用ガラスについては、エコカー向けの軽量化製品や遮熱性能等に優れた製品、またUVカット率を99%まで高めたフロントドア用強化ガラス UV ベール Premium のような快適性を高めた製品の開発を加速し、お客様へ積極的に提案していきます。

また、成長基盤構築のもう一つの柱である「第2のグローバル化」を推進するため、既進出の新興地域であるロシアにおいては、2010年に稼働した世界最大級のフロート設備を最大限に活用し、建築用・自動車用ともに旺盛な需要に積極的に応えていきます。中国においては、2011年初めに設置したAGCグループ中国総代表を中心に、情報収集と事業展開の支援を通じ、中国事業の一層の推進を図ります。また、ブラジルでの建築用・自動車用ガラス事業への本格進出を具体化させるなど、未進出の新興地域についても、事業展開を推進していきます。

AGCグループは、「2020年のありたい姿」～持続可能な社会に貢献する高収益・高成長のグローバル優良企業～を目指し、経営方針 **Grow Beyond** の下、今後も中期経営計画 **“Grow Beyond-2012”** の諸施策を着実に実行していきます。

以上

◎本件に関するお問い合わせ先 **AGC** 旭硝子(株) 広報・IR室長 上田 敏裕

(担当：戸張 TEL:03-3218-5509 Email : info-pr@agc.com)

<参考資料>

1. 2020年のありたい姿

**AGCグループは、
『持続可能な社会に貢献している企業』として、**

- 差別化された強い技術力を持ち、
- 製品のみならず、生産工程・事業活動全般に亘って環境に配慮し、
- 新興地域の発展にも寄与する、

高収益・高成長のグローバル優良企業でありたい。

2. 経営方針

経営方針 *Grow Beyond*

2020年のありたい姿を目指し、
3つの視点で成長基盤を構築する



3. 2020年の事業イメージ

2020年 売上高 2兆円以上	
<p>新興市場 売上高比率</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中国・インド・ロシア等既進出各国での事業拡大 ・未進出新興市場での積極的な事業展開
<p>環境関連 売上高比率</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネガラス製品（建築用、自動車用） ・ソーラー関連製品 ・新照明関連製品 ・その他環境関連製品
<p>新製品 売上高比率</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスプレイ用新規製品 ・ソーラー関連製品 ・新照明関連製品 ・半導体・電子製品向け新規製品 ・その他新規製品